

第4回 関西支部研修会

日時：平成30年1月28日(日)
場所：梅田センタービル
講師：井汲 憲治先生



南光 勉 (滋賀県)



1月28日(日)に梅田センタービルで第4回関西支部研修会が行われました。

午前中は3名の先生による会員発表が行われました。田中祐介先生の「歯肉弁歯冠側移動術を行った症例」では、同じ患者様の左右側で根面被覆を行い、結果の違いについて考察をされていました。特に審美領域の歯周外科では、一つ一つの手技が大切だと改めて感じました。福留健太郎先生の「インプラントを用いて咬合を回復した1症例」では、インプラント周囲炎、インプラント除去のタイミングについて議論がありました。そして、山本彰美先生の「インプラント治療が、健康状態改善に寄与した1症例」では、嘔吐反射の著しく強い患者様の治療として、3回の鎮静(オベ、印象、SET)を用いて行われたインプラント症例を見させていただきました。嘔吐反射の著しく強い患者様や、強度の歯科恐怖症の患者様には、非常に有意義な治療だと思いました。

午後からは井汲憲治前会長の「インプラント治療の過去・現在そして未来 ーより良い審美と機能そして治療経過を求めてー」という講演を聞かせていただきました。今後AIが益々広がっていきませんが、歯科医師という職業はAIに代われないという内容がありました。歯科でもどんどんデジタル化が進んでいますが、芯となる部分は人間しかできないと私も感じます。ついつい最新の情報を求めがちになりますが、時には過去から現在を見つめ直すことも必要だと感じました。

